

## 第 52 回関東・中部地区治山林道研究発表会にて優秀賞受賞

第 52 回関東・中部地区治山林道研究発表会が 8 月 26 日、埼玉県にて開催されました。林野庁、関東・中部地区の各都県、関係団体等より 220 名が参加し、治山部門 9 件、林道部門 4 件の発表がありました。三宅支庁産業課の原田佳代子主事、国立研究開発法人森林総合研究所の小川泰浩研究員による共同発表チームが、治山部門の最高の賞である優秀賞を受賞しました。



写真① 選考委員と受賞者（前列右側から 3 番目：原田主事）

発表内容は、森林総合研究所と共同で開発した緑化資材「東京クレセントロール」(ToCR) の機能検証を報告したものです。ToCR は植生回復及び山腹斜面の侵食防止を目的とし、東京都三宅島の微地形や火山ガス環境に合わせた柔軟な配置が可能な環境保全型ロール資材です。(写真②参照)



写真② 斜面に配置した ToCR (三日月型のもの) 写真③ 次期開催県代表挨拶をする石城森林課長

次年度の関東・中部地区治山林道研究発表会は東京都での開催となります。開催県ということで、より一層発表者の選出や内容の検討に力を入れ、本年度に引き続き優秀賞の連続受賞を目指します。